

令和5年度第2回亀岡市環境基本計画推進会議

開催日時	令和6年1月17日(水) 午後2時～4時
開催場所	亀岡市役所3階302・303会議室
出席者	田部委員、船越委員、芦刈委員(オンライン)、豊田委員、森委員、堀下委員、竹内委員、井上委員、吉田委員、橋委員、村山委員、中川委員、原田委員、多胡委員、法貴委員、山内幹事 (事務局3名)
欠席者	内藤委員、川口委員、伊藤委員
傍聴者数	2名
次第	協議事項 ・亀岡市地域再エネ導入ゾーニング事業の中間報告について 報告事項 ・「かめおか脱炭素未来プラン」進行管理に係る指標案について

1 会長挨拶

2 協議事項

(1) 亀岡市地域再エネ導入ゾーニング事業の中間報告について

《資料に沿って事務局から説明》

委員

亀岡市の温室効果ガス排出量について、2030年度 293千 t-CO₂、2050年度0千 t-CO₂ が目標量となっている。そうすると2050年度の削減目標量も293千 t-CO₂ になるのではないかと疑問を抱いている。なぜ144千 t-CO₂ となっているのか。

事務局

「かめおか脱炭素未来プラン」を策定した際に、国等の施策による削減量と亀岡市が独自に削減すべき目標量を分けて設定した。144千 t-CO₂ は亀岡市が削減すべき目標量として記

載している。

委員

再生可能エネルギーには太陽光以外にも風力やバイオマスなどがある。今回の説明は太陽光パネルの設置を前提としているのか。

事務局

昨年度、再生可能エネルギーのポテンシャル調査を実施した結果、太陽光のポテンシャル量が最も多かった。次に風力が大きかったが、設置上の課題を勘案した結果、太陽光とバイオマスの活用が有力ということで、「かめおか脱炭素未来プラン」にも位置付けたところだ。

2030年の中期目標を見据え、太陽光を主軸に展開したいと考えているが、並行してバイオマス等の可能性も検討していきたい。

委員

住宅への太陽光導入を考えた場合、導入時の支援に加え、経年劣化などへの対応も必要かと思う。

また、例えば公共施設の中で学校の占めるポテンシャルも高いように感じる。場所柄、子どもたちの目にも触れるため、情報発信の意味も含めて設置の意義が高いのではないか。

事務局

小さいころから再生可能エネルギーへの理解を深めることは非常に大事なことである。

また、太陽光導入にあたり、ランニングコストやメンテナンス等を含めた全体的な視点で進めていかなければならないと認識している。

委員

再生可能エネルギーの導入目標を達成するには、人口減少や太陽光パネルの耐用年数、太陽光以外の発電方法も加味するなど総合的に進めていく必要がある。近隣市町村との連携も模索すべきでは。環境先進都市として模範を示して欲しい。

事務局

他の自治体の事例なども収集しながら施策を進めていきたい。国や府にも働きかけ、また会議の場などで情報共有できればと考えている。

委員

2050年を見据えた場合、太陽光発電設備のメンテナンスは大きな課題だ。十分な面積を確保するには森や山の活用も必要になってくるのではないか。

また、防災面との関わりを詳しく教えて欲しい。

事務局

住宅以外にも倉庫や工場、駐車場などの活用も考えられる。2030年の中期目標達成に向けて建物をモデルとして説明したが、長期的な視点では木質系バイオマスや生活系バイオマスのエネルギー化も考えられる。民間企業のノウハウ等も取り入れながらさまざまな方向から再生可能エネルギーの導入を進めていきたい。

防災の観点では、太陽光パネルの設置に加え、蓄電池の設置が効果的である。蓄電すれば夜間に使用ができ、災害時にも役立つものだ。電気自動車に搭載しているバッテリーから家庭に給電するシステムもある。さらにバイオガス発電などは24時間発電が可能で、ベース電源としても期待できるため、複合的に検討を進めていきたい。

委員

太陽光発電における平均的な蓄電量など具体的な数値が分かれば示して欲しい。

事務局

後日、調べた上で提示させていただきたいが、家庭向けでは5～10kWh 程度の蓄電池を設置されるケースが多い。

委員

耐荷重などの面で太陽光パネルが設置できない屋根もある。改修も含めて支援していかないと普及しないと思うので、仕組みづくりをお願いしたい。

委員

ゾーニングマップ案は野立て型の太陽光発電を対象としているのか。

屋根置き型の太陽光発電については市街化区域外もゾーニング対象とするのか。

事務局

屋根置き型の太陽光発電に対するゾーニングは現状、未定である。示しているゾーニングマップ案は野立て型を対象としたものだ。本日の意見も踏まえながら継続作業としたい。

委員

ペロブスカイト太陽電池など先進技術の調査・検討を進めて欲しい。再生可能エネルギーの導入に積極的な会社であっても、耐久性の問題などで屋根置き型の太陽光発電を設置できないケースもある。ソーラーカーポートについても同様に重さの問題がある。軽くて薄いペロブスカイト太陽電池はこれらの課題解決に役立つもので、ぜひ検討を進めて欲しい。

事務局

脱炭素化には技術の進歩も重要であると認識している。再生可能エネルギー関係の技術は日進月歩であり、調査研究を進めながら動向を注視したい。

委員

資料には再エネ導入目標8.8万MWhとあるが、隣の2.8万MWhとは何の目標値か。

事務局

省エネにおける目標値である。再エネと省エネ双方で目標値を設けている。

委員

屋根や駐車場の抱き合わせが効果的ではないか。さらに、ため池や空き地も活用できるのでは。先進技術も重要だが、量産や大型化の点で実用化に時間がかかるように思う。

屋根置き太陽光については、売電価格の低下やメンテナンスが大きな問題ではないか。

事務局

FIT 価格の低下や廃棄の問題は認識している。一方で、現在、自家消費という考え方に移行している部分もあり、電気自動車や蓄電池等と組み合わせて家庭に導入することで災害時の備えにもなる。太陽光発電は有力な施策であるため、課題も合わせて検討していくひつようがある。

委員

中国では電気自動車が主流となっている。注目すべきポイントと考える。

3 報告事項

(1)「かめおか脱炭素未来プラン」進行管理に係る指標案について

《資料に沿って事務局から説明》

委員

指標の基準年はいつになるのか。LED化については、街路灯などはかなり進んでおり、またごみの排出量については今年度から分別拡大となるなど、進捗にばらつきがある。

事務局

基本的には今年度がベースとなります。それに対して、2030年の目標値を設定し、進捗を毎年度示すかたちとなる。

幹事

ごみの削減率については2021年をベースにしている。

事務局

基準の数値を示しながら目標とあわせて提示していきたい。

委員

スマートメーターとは何か。

事務局

家庭で使う電気使用量を計測し、見える化するメーターである。

委員

アプリで見られるものか。

事務局

そうだ。一日の電気の使い方が分かるようになる。

委員

特定事業者は亀岡市内の事業所のうち何割くらいにあたるのか。

事務局

調べてご提示させていただくが、割合としては少ない。

委員

促進区域を設定した場合、数値的な推移を把握する必要があると思う。それを見据えた上で指標も検討してはどうか。

事務局

ゾーニング後2年以内に区域施策編の中に促進区域を盛り込む必要がある。この「かめおか脱炭素未来プラン」の指標とはタイムラグがあるため、一度別に指標を立てたいと考えているが、引き続きご意見をいただきながら検討したい。

4 副会長挨拶

5 閉会

以上